WELgee

2016年度~2018 年度
活動報告書

Co-Creative Adventure

3 Year Report 2016/3-2018/3

みなさまへ

WELgee は 2016 年 3 月に始まりました。長いようで短い、3 年という日々。
当初マクドナルドで夜通し語り、オフィスの床で寝袋で語り合った友人たちは、帰ることのできない故郷を目の前にしつつ、日本語が上手くなり、日本での生活基盤を少しずつ作っています。彼らは自分より後に日本にやっていた人たちの優しい先輩でもありながら私たちの試行錯誤にも様々な形で参画してくれています。
形もない頃から WELgee を応援をしてくださっている皆さま、心からの感謝をお伝えします。うまくいかないことも、期待を裏切ってしまうことも、いい協働になりきらないこともありました。いつも信じてくださる方々に、何度励まされたかわかりません。

希望を求めて日本にやってきた仲間たちへ。

喧嘩することも、喜びを共有することも、悔しい瞬間に直面することも、家族の成長を一緒に見ることも、それら全ての瞬間に、私たちもいつも成長をさせてもらっています。「難民認定」という自分にはコントロールできない未来を待つだけではなく、自分の力で、動こうとする人たちがいる。外国の大変な問題と眺めるのではなく、日本にいる自分たちにも何かできるかもしれない、と動く人たちがいる。その交差点が、WELgee である気がしています。

さてここからは、この数年で見えてきたことを形にしていくフェーズがいよいよ始まります。
この３年の試行錯誤を振り返りながら、また新しいアイデアや協働の種が生まれる報告書になっていたら嬉しいです。お手に取っていただき、感謝いたします。

WELgee 代表　渡部 カンコロンゴ 清花

Contents

- ビジョンとミッション 02
- WELgeeの歩み 03
- 事業報告 05
  - 就労伴走事業
  - Tech-Up事業
  - セミナー事業
  - 緊急シェルター事業
  - 千葉ハウス事業
  - サロン事業
  - News for 2020
- Team WELgee 13
- 財務報告 17
- 団体について 18

WELgee = WELCOME + refugee

～難民の人々も歓迎できる社会に～

VISION

自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会

A society where anyone can shape the future together regardless of one's circumstances

MISSION

志を発掘しつながりを広げ、未来をデザインできる仕掛けをつくる

We discover individual passions,expand connections and create triggers that make the future designable.

設立から３年間の歩み Our achievements

WELgee は 2016 年 3 月に、任意団体として始まりました。
役割は、一人ひとりの難民の中に眠る志を発掘し、彼らと多様なアクターとの繋がりを生み出すことにあります。
WELgee は 3 年間のうちに 146 名の難民当事者と出会い、彼らとの対話を続けてきました。エンジニア、弁護士、バスケットボールの国際審判 ... 個性を持つ彼らが、活躍する機会を手に入れることができたのは、皆様のおかげです。
プロボノ・寄付者・企業の方々・アドバイザーの方々 ... 数えきれない方々の支えがなければ、今の WELgee はありません。
本ページでは、皆様との関わりの中で成長してきた WELgee の軌跡をご覧ください。

人々と繋がった実績

WELgee サロン参加者 ･････････ **1000** 名以上
セミナー実施回数 ･････････････････ **71** 件
（講演 54 回・企業研修 17 回）
セミナーの参加者 ･････････････････ **3274** 名

当事者との実績

出会った難民 ･････････ **146** 名
相談実績 ･････････････ **435** 件

仕事に繋がった実績

社員雇用 ･････････････････ **4** 名
インターンシップ実施 ････････ **6** 件
採用面談実施回数 ･････････ **18** 件

2016
- 3月 任意団体 WELgee 設立

2017
- 9月 1人目の難民の企業採用が決まる
- 10月 難民ホームスティ開始
- 10月 WELgee サロン開始
- 11月 ASACキックオフピッチ＆第３期採択
- 6月 顧問行政書士 長岡、山本（就労伴走事業部）が参画
- 10月 安齋（戦略室）が参画
- 11月 緊急シェルター open day !

2018
- 9月 就労伴走事業着想

- 12月 千葉ハウス購入のためのクラウドファンディング開始
- 1月 林（PR部）が参画
- 2月 NPO 法人 WELgee 設立

- 3月 坂下（就労伴走事業部）が参画
- 6月 ETIC 主催・社会起業塾への採択
- 6月 顧問弁護士 小野田が参画

2019
- 1月 VBM（仮想理事会）の実施
- 3月 玉利（セミナー事業部）が参画
- 3月 就労伴走事業を通じて、累計４名が就職を果たす

- 3月 3 周年記念パーティ
- 11月 Tech-Up 事業プロトタイプの開始

- 3月 INCO（フランス）主催『2018 年女性起業家アワード』にて代表・渡部がグランプリを授賞
- 3月 2 周年記念パーティ

…組織変化
…Work with
…Live with
…Talk with
…その他

Our achievements

Project 01
Work WITH

Project 02
Live WITH

Project 03
Talk WITH

就労伴走事業 Career Program

世界各国から難民として日本に逃れてきた人たちが、企業内でその才能を生かし、活躍できる未来を作るために、彼らが仕事に就くまでの伴走をしています。

2018年度の結果

就労意欲のある 50 名の難民と繋がり、
就労伴走では 4 件の社員雇用が生まれ、78 社の企業に対して難民の雇用についてレクチャーしました。

数値実績

採用面談実施回数 …… 18
インターンシップ実施件数 …… 6
社員雇用件数 …… 4

2018年度の総括

WELgee の就労伴走事業は、「難民認定申請者のうち 1% 以下の人しか到達できない難民認定をゴールとせず、日本に難民として逃れてきた人たちが就労を通して日本で安心して暮らし働ける状態を作ること」を目標に進められています。これは、政府のみに頼らない、民間セクターとの連携で切り拓く、オルタナティブな方法です。この一年、実際に 78 社の企業さん、50 名の難民の人たちと面談をする中で、様々な気づきがありました。強く気づかされたことは、慈善事業として「難民」を雇いたい企業さんは少ないということ、人材側も給料やビザを得るために職場を選ぶ人はいないということ。

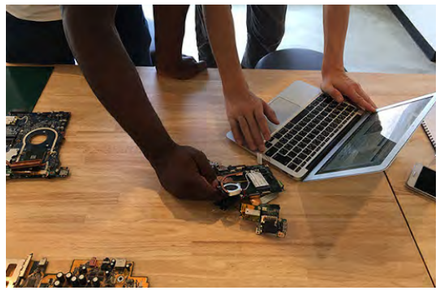
企業側の描く事業戦略と個人の描くキャリアビジョンが重なり、高い熱量で同じ職場で働くことが実現する、心震える瞬間に立ち会うこともありました。また、悔しい時期をともに過ごすこともありました。
母国の友人が殺されたニュースを耳にして勤務先で急に落ち込んでしまう人もいました。日本人社員とのコミュニケーションにずれを感じて克服しようと試行錯誤する人もいました。

このような時期を共に経験し、私たちは、WELgee ができること・すべきことは、難民の人々と企業の一過的な「マッチング」ではないことを学びました。就労伴走事業の山本は、当時のことをこう振り返ります。

「活動のゴールは就職じゃなかった。そして在留資格でもなかった。
私たちがすることは、奇跡のように重なった人の人生と企業の歩みに固い意志を持って伴走することなんです。
だから就労伴走事業は、仕事を探している人と人を探している企業さんを、引き合わせて終わりではないんです。」

エピソード

CASE 01



西アフリカの母国で起業を試みたものの、激しくなる戦火の最中で店舗になる予定の物件が焼き討ちにあい、日本に逃れてきた若者がいます。彼の企業での最終面談の姿が印象的でした。社長さんに「あなたにはビジョンはありますか？」と問われたとき、それまで緊張でたどたどしく応答していた彼が、まっすぐ社長さんの目を見つめて「誰もが、国籍や人種、宗教、ジェンダーにかかわらず、可能性を発揮する機会を平等に与えられるべきだと思います」と答えたのです。その瞬間、社長さんの目も輝きました。

CASE 02

大手企業役員の方々の参加する勉強会で、「難民の若者も活躍する未来の日本企業とは？」をテーマに講演し、その後難民の若者たちも加わりディスカッションを行いました。「日本の雇用主は履歴書を見ただけの場合と、”難民”って聞いた場合と、印象は変わる？」「日本の職場で働くことに不安はある？」などなど、活発な意見が飛び交いました。懇親会の終盤では、日本人の参加者から「難民のイメージが 180 度変わった。今日感じた可能性を、まずは参加した人たちから形にしたい」とのお言葉をいただき、難民の若者たちや WELgee のスタッフと熱い握手を交わしました。実際にその後の採用などに繋がっています。

CASE 03

幼い娘二人を連れてアンゴラから逃れてきた一家は、出会った当初は明日寝る場所もなく、WELgee スタッフと数ヶ月間共同生活を送りました。一家のパパは、何よりも娘たちの将来を大事に考えており、出会ってから半年後にやっと就労許可が得られてから、安定した仕事を求めて努力し続けました。その間、長女は地域にある公立の学校に編入。登校初日には WELgee 職員が、パパに同行し、ランドセル姿で緊張した長女の姿を見届けました。パパの優しい人柄と固い決心、豊富な職歴が実を結び、製造業の企業への就職が決まりました。

Project 01 Work WITH | Project 02 Live WITH | Project 03 Talk WITH

Tech-Up 事業 Tech-Up Program

難民の若者へプログラミングスキルを身につける機会を提供し、彼らが自分らしく生きるきっかけをつくる、未来の IT 人材育成の場です。

2018年度の結果

一般社団法人日本福音ルーテル社団が生徒にパソコンを貸与し、アダワープジャパン株式会社が講座を提供し、4 ヶ月のパイロット版を実施。6 名が参加し、うち 1 名がエンジニアとして就職。他 5 名が、一般企業へ就職や日本語教室への進学など、キャリアを進めるための一歩を踏み出しました。

数値実績

受講人数 ..... 6 名
完走者 ..... 1 名

2018年度の総括

2018 年 11 月から始まった Tech-Up。それは、難民の方達が自分のやりたいことを実現する手段としてプログラミングを学び、プログラマーとしての就労を目指す事業です。
「日本に来たはいいけれど、自分の夢の実現のために何から始めればよいかわからない。けれど、何か始めたい」。
そうした想いを持った難民の方 6 名を「スカラー（生徒）」として迎え、11 月にパイロット版がスタートしました。アダワープジャパン株式会社と一般社団法人日本福音ルーテル社団の協働の下、プログラミングのレッスンが実施されました。

加えて、日本人プログラマーによる仕事についての講義や学習の個別サポート、難民として来日し現在 IT 企業で働く先輩プログラマー（コンゴ出身、20 代）による補講なども行われてきました。特に、先輩プログラマーはスカラーにとって身近なロールモデルとなり、彼らの学びが前進するきっかけになりました。

現在、6 名の元スカラーはそれぞれの道でチャレンジを始めています。自らの中国語スキルを活かせる仕事を見つけて正社員として働き始めた人や日本語教室に通って、日本語の習得に励む人など。
このような Tech-Up 事業の意義について、事業を担う島倉はこう述べています。

「彼らの「今」は、私たちが当初想定していたものとは異なります。
しかし、彼らが頑張りたい「何か」を見つけアクセルを踏めたのは、
Tech-Up の中で自分と向き合い、
とことん悩む時間を作れたからだと思っています。」

Project 01 Work WITH | Project 02 Live WITH | Project 03 Talk WITH

緊急シェルター事業 Emergency Shelter Program

日本に来たばかりで、今日泊まる場所のない人が、今夜「ただいま」と来れる場所です。
WELgee スタッフが同居し、難民の方への自立まで伴走します。

※2019 年 3 月に終了

2018年度の結果

2017 年 12 月に開始したクラウドファンディングを通じて始まった緊急シェルター。今日帰れる場所のない 13 名の難民の方々を迎え入れました。3 歳の女の子から、50 代のミュージシャンまで、年齢・国籍の異なる方々が滞在しました。

数値実績

入居人数 ..... 13 名

2018年度の総括

緊急シェルターが始まったのは、2017 年 11 月です。日本に住む難民の人々の抱える住居の課題に直面したことがきっかけとなり、構想が始まりました。難民シェルターのほぼ無い日本では、入国後に住居を見つけることができず、路上生活をせざるを得ない方も少なくありません。日本の物価がわからず、高額なホテルに滞在し、所持金を全て費やしてしまうケースも見受けられます。日本語を話すこともできず頼れる友人もいない中で、シャワーにもろくに浴びれない .... そんな状況が、日本にも存在します。
「今家族 4 名で、新宿のベンチで寝ている」と連絡をくれた来日してから 3 週間の、3 歳と 7 歳の子供がいる家族や、国から一人で逃れた単身の女性も WELgee のシェルターを利用しました。496 日間の中で、13 名の方が滞在し、30 名ほどが短期の宿泊をしました。滞在をした人の中には、医学の勉強を続けるために大学院への進学を目指して勉強をする方や、就労伴走事業を通じて清掃会社へと就職をした方もいます。上述の家族のお父さんも、製造メーカーへ就職を果たしました。
「私たち家族は、WELgee のシェアハウスに滞在しましたが、
彼らのおもてなしは本当に素晴らしいです。
WELgee は私たちに宿泊施設や子供たちへの教育機会を提供してくれました。仕事を得たことで、以前とは異なる方法で人生を見ることができます。」
緊急シェルターは、2019 年 3 月 31 日をもって終了しましたが、
ここで生まれた価値は計り知れません。
シェルターが運営できたのは、寄付をしてくださった皆様や、
応援をしてくださった皆様のおかけです。

Project 01 Work WITH | **Project 02 Live WITH** | Project 03 Talk WITH

千葉ハウス事業 Chiba House Program

難民の方が日本の地方で安心して未来を築ける空間を目指すシェアハウスです。地域のお祭りや消防団活動などに積極的に参加しています。

※2019 年 12 月に終了予定

2018年度の結果

多くの寄付者の方々に支えられ、設立された千葉ハウスでは、年齢や国籍を超え、多様な背景を持つ 150 名の方々が訪れました。4 回開催されたワークキャンプでは、30 名が参加しました。

数値実績

- 281 名の寄付者の方に支えられて設立。
- 150 名以上が来場。
- 難民ワークキャンプを 4 回開催（2019 年 3 月時点）

2018年度の総括

2017 年 12 月より始めたクラウドファンディングにて、281 名の方に支えられて始動した千葉ハウス事業。2018 年 6 月にオープンした千葉ハウスでは、「顔の見える関係性は難民のイメージを変える」という仮説を検証するため様々な挑戦が行われてきました。

千葉ハウスの住人・笠置とアンゴラ出身の P さんは、地域の人たちに千葉ハウスの理念や想いを伝え、彼らとともにできることを考え始めました。笠置は消防団に加入し、P さんも笠置と一緒に、お祭り、地引網イベント、勉強会、不動産会社でのボランティア活動、地域 NPO 法人への営業などに参加しました。次第に地域住民との接点ができていき、社会福祉士や市役所の方に難民の方の現状を伝える機会をいただいたり、80 人の小学生をハウスに招いたりすることもできました。

初めは警戒をしていた地域の人々も、P さんを「外国人」や「難民」というカテゴリーではなく 1 人の人として捉えてくれるようになりました。

また、より多くの人に多文化共生について考える機会を持ってほしいと、NPO 法人 NICE とともに 2 か月に 1 回程度千葉ハウスで難民ワークキャンプを開催してきました。
難民の人々と家の DIY をしながら汗をかき、食事をし共に日本社会で生きていく方法について語る一泊二日の難民ワークキャンプは、2019 年 3 月の時点で 4 回開催されました。
7 か国、総勢 30 名以上の方々に参加していただきました。

Project 01 Work WITH | Project 02 Live WITH | **Project 03 Talk WITH**

セミナー事業 Seminar Program

出張授業：難民としての経験をもつ先生と日本語を話すスタッフが、普段聞けない体験の話を届け、真の意味での「国際理解教育」を届ける、WELgee ならではの授業です。
企業研修：企業を対象に、「社会課題解決」「国際理解教育」「グローバル人材」等の様々な観点から、難民の背景をもつアンバサダーとスタッフが、インタラクティブなワークショップをお届けしています。

2018年度の結果

企業や学校、自治体等の団体に対して、71 回のセミナーを実施し、3000 人以上の企業人・一般の参加者に対して、日本に住む難民の可能性を伝えました。

数値実績

講演・出張授業	**54 回**
企業研修	**17 回**
合計	**71 回**
合計参加者人数	**3000 人**

2018年度の総括

2018 年から始まったセミナー事業は、みなさまのご協力のおかげで 2019 年 3 月までに 54 の学校・自治体、17 の企業をお客様とすることができました。
企業研修の始まりは、WELgee が作ってきたさまざまな場において、ビジネスパーソンの方が口にしていた言葉です。それは、**「可能性に溢れる難民の人々を、会社も社会も活かせていない！」**ということです。
その想いを強く共有する WELgee は、若さとやる気を兼ね備えた難民の人々と、志ある企業人とがコラボレーションできる機会を 1 つの事業にしたいと、試行錯誤を始めました。
企業研修が始まったばかりの頃、株式会社ジェイフィールさんの協働の下、「企業の人が世界の社会課題を実際に知る」ことをテーマにした研修をさせていただきました。実際に研修を受けた社員さんは「難民や WELgee の生き様がすごい」と衝撃を受けたそうです。株式会社ジェイフィールの佐藤さんは「この研修が企業人の刺激になっていて、変化も実際に見えている。こういったことをこれからも続けていきたい」と述べています。

回を重ねるうちに、様々な嬉しい声を企業の方からいただくようになりました。
「法律は難しいけれど、民間で受け入れる体制さえできれば、
難民を受け入れることができるのではないか」
「この研修は今までなかった。僕たちが実行して何とか繋げていけるように頑張る。上司がイマイチでも、部下にはそうさせない。
僕たちは、変えていく」
「自分がレールの上で順調に生きていこうとしていたことを考え直させられました」等々。

Activity Reports

Project 01 Work WITH | Project 02 Live WITH | Project 03 Talk WITH

サロン事業 Salon Program

「ともに語る」をモットーとし、日本に住む人々と難民の方々が出会い「個人として」対話をすることのできる場を作っています。

2018年度の結果

WELgee サロンの最も大きな変化は、難民の方が参加者ではなく、主催者となったことです。これまでゲストであった難民の方々の視点が運営側に加わり、よりイベントの内容の幅が広がりました。

数値実績

・WELgee サロンを計 10 回開催
・300 人の日本人が参加
(2016 年からの累計では 1000 人以上が参加した)
・60 人の Internationals(難民の方々) が参加

2018年度の総括

2016 年から始まったサロンは、皆さまに支えられて、累計 1000 人以上の方にお越しいただきました。
「クリスマス」「描くことで表現」「異文化間友情」など、毎回のテーマを決めて実施される WELgee サロンでは、難民について話す（talk about）ではなく、難民の方々とともに語る（talk with）場の提供をモットーに活動が行われてきました。

このサロンの運営は、2018 年 8 月から大きく変化しました。「難民についてではなく難民とともに語る」場は運営側にも取り入れられることになったのです。難民の方々へ一人ずつインタビューをした時のことです。「運営側に入ってサロンを一緒に作りたい。僕たちをもっと頼って」という声が、彼らからあがりました。そこから、今まではアドバイザーだった彼らが、オーガナイザーとして共に歩む為の仕組みづくりの模索が始まりました。

難民の彼らから呼びかけられて行った 4 時間にわたる会議では、サロンに対してもっているビジョンの違いが浮き彫りになりました。堅実な運営を目指す日本人メンバーに対し、彼らはいつでも行ける気軽な場としてのサロンを望んでいたのです。４時間の会議を通じて、サロンは難民の彼らが主人公として対等な立場でサロンを運営できて、安心できる場であるべきだという結論にまとまりました。日本人メンバーは、彼らと本気で向き合ってサロンを作り上げていくことを再確認しました。

「JobCopass」を正式にローンチします！

JobCopass

ジョブコーパス

「生きることは働くこと」

2017 年、1 人の難民の方の言葉から始まった就労伴走事業。
「難民」と呼ばれる彼らと対話を重ねるごとに、彼らひとりひとりの志や、
日本に貢献したい想いを日に日に感じるようになりました。

しかしながら、難民を人材として採用するためには、「難民」の持つネガティブなイメージ、
日本語、在留資格など、多様な「壁」が立ち塞がりました。
そんな中でも、想いのある経営者の方々が「成長意欲の高い人材が欲しい」
「誰もが上を向いて歩ける社会を作りたい」と採用を決定してくださいました。
そして就労伴走事業は 2 年間の検証期間を経て、正式にサービスをローンチします！

JobCopass（ジョブコーパス）
Job -「仕事」を通じて
Co -「共」に
Pass -「Passion - 熱意」溢れる明日への「Pass - 切符」を手に入れる

そんな思いを込めて、JobCopass というサービス名称を付けました。
バイタリティ溢れる人材が、強みを活かして生き生きと働くことのできる日本社会は、
きっと今よりも多様性に寛容で、誰もが境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会になると信じています。

JobCopass は、難民の人材と、企業パートナーの皆様とともに、
日本社会に変革をもたらします。

Activity Reports

WELgee の理念は「共に (WITH)」です。
職員や顧問だけではなく、難民の若者たちや、共感する企業の方々、アドバイザー、寄付者の方々……理想の社会の実現のために共に活動する仲間達が垣根を超えて存在しています。ここでは、その中でもコアで関わる人々を紹介いたします。

職 員

代表
渡部 カンコロンゴ清花

1991 年静岡県生まれ。
様々な背景をもつ子どもたちが出入りする NPO の実家で育つ。大学時代はバングラデシュの紛争地にて NGO 駐在員、国連開発計画 (UNDP) インターンとして平和構築プロジェクトに携わった。
2016 年、難民の仲間たちと WELgee を設立。
東京大学大学院 総合文化研究科・人間の安全保障プログラム 修士課程在学中。

職 員

戦略室長
安齋 耀太

1990 年東京都葛飾区生まれ。千葉県我孫子市育ち。開成高等学校および筑波大学社会・国際学群社会学類卒業、東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。現在同博士課程在学。元日本学術振興会特別研究員・元ハレ大学(ドイツ)客員研究員。研究テーマは「国家と難民」「庇護権」「ドイツと日本の難民法の歴史」。趣味は睡眠とカラオケ。好きな食べ物は蕎麦と鰻。好きな飲み物は日本茶とスコッチ。

職 員

PR 部統括
林 将平

1995 年生まれ。早稲田大学卒。
トビタテ！留学 JAPAN2 期生。
スウェーデンへの交換留学時にシリア難民と出会い、彼らの壮絶な体験や人としての美しさに心を動かされる。「伝える覚悟と伝わる表現」をモットーに、広報として WELgee の魅力を発信するために奮闘中。

職 員

就労伴走事業部
統括
山本 菜奈

1994 年横浜市生まれ。小中高を米独で過ごした。17 歳の時ネパールの山岳民族の若者たちと出会い、多様な人の「働く」を通じた社会活躍に関心を抱く。「一人ひとりの自己実現につながる「働く」が、地域の産業を活性化し、コミュニティの文化を豊かにする」そんな連鎖を生みだすというビジョンを掲げる。
カナダ留学や北海道での産業振興インターンシップを経て、現職。

職 員

就労伴走事業部
キャリアコーディネーター
坂下 裕基

1987 年、東京都品川区生まれ。
神田外語大学卒業。㈱ BONZUTTNER 代表、㈱ KOP CMO を兼任。

「すべての人に機会」をモットーに様々な活動に従事。最も好きな食べ物は、大井町にあるラーメン屋幸龍の提供する黒龍というトンコツラーメン。

職 員

セミナー事業部
統括
玉利ドーラ

1988 年、クロアチア共和国生まれ。ロンドン大学大学院ユニバーシティカレッジ心理学・脳科学専攻にて「社会認識」修士課程取得。高校時代より返金不要な奨学金を探し、世界計 8 ヶ国、島と船に長期滞在し、幅広い国籍、年代、職種の人々と共に住み学び働く。
現在は西洋文化と日本文化のナヴィゲーターとして、セミナー事業に従業。

監 事

おせっかい社かける
共同代表
渡邉 賢太郎

1982 年、大分県別府市生まれ。立命館アジア太平洋大学卒業。大手証券会社を退職後、「お金」をテーマに 2 年間の世界一周旅へ。帰国後、SUSANOO プロジェクトを立ち上げ。社会課題反転価値創造型スタートアップのコミュニティづくりに携わる。2018 年より Mistletoe 参画 。おせっかい社かける共同創業者。著書に「なぜ日本人はこんなに働いているのにお金持ちになれないのか？(いろは出版)」など。

顧 問

小野田高砂法律事務所
代表弁護士
小野田 峻

2011 年 3 月 11 日に司法修習生として勤務中の盛岡で東日本大震災に遭遇したことをきっかけとして、弁護士登録後、弁護士会内有志の津波被災地訪問企画を立案し継続的に実施。2016 年 11 月からは自身が代表を務める小野田高砂法律事務所と併設する形で社会起業家向けシェアオフィス「social hive HONGO」を本郷三丁目にて開業・運営。常にプレーヤー側の視点に立ったビジネス横断的なアドバイスや社会起業家の多様な可能性を未来に繋げる活動に強みを持つ。

顧 問

行政書士
明るい総合法務事務所
代表
長岡 由剛

早稲田大学卒。
サラリーマンを経て 2011 年に行政書士登録。主たる業務は外国人在留関連手続き。現在は行政書士 5 名、補助者 3 名の体制で年間 1,000 件以上の外国人に関する案件をこなす。
行政書士会支部研修の他、外国人支援団体等の研修、外国人採用に関する企業内研修等において毎月 2 回以上の頻度で講師を務めている。

WELgee を励ましてくださる、心強いサポーターの応援メッセージをお伝えします。

サポーター

ユナイテッドピープル
株式会社
代表取締役
関根 健次さん

日本にやってくる難民。
どうにかしなければならない社会課題というよりも、日本を多様性豊かな社会にできる機会と捉え、次々と前向きなアクションを重ねる WELgee を心から応援しています！

サポーター

株式会社チェリオ
コーポレーション
専務取締役
菅 大介さん

チェリオは CHANGE WITH CHEERIO をモットーに、よりインクルーシブな社会の実現を清涼飲料を通じて実現すべく、事業経営に取り組んでいます。渡部さんと出会って、WELgee の活動内容を伺い、「Global に考えて Local に実践する」ことを大切にしている弊社として、是非サポートしたいと感じました。メンバーの方々との交流を深めながら、ともに歩いていければ幸甚と考えています。

サポーター

NPO 法人 ETIC.
代表理事
宮城 治男さん

日本にやってくる難民。
どうにかしなければならない課題というよりも、日本の多様性を豊かにしていく「ともにカラフルなセカイをつくる」契機と捉え、次々と前向きなアクションを重ねる WELgee の活動を心から応援しています！

サポーター

アクセンチュア
株式会社
シニア・マネジャー
山口 将由さん

これまで日本における難民問題は、生活の保護や認定率の向上といった文脈でしか語られず、長らく解決の糸口の見えない社会課題でした。そこに、当事者一人一人の方々の人間性やスキルに光を当てて、日本を共に支える仲間として再定義した WELgee の発想の転換は、この硬直化した状況にパラダイムシフトをもたらす、イノベーティブなチャレンジであると確信しています。

サポーター

立命館アジア太平洋大学
国際経営学部 准教授
上原 優子さん

日本における難民の現状について知った 2000 年以来難民問題に関わり続け，その中で私は WELgee と出会いました。WELgee から感じるのは，難民に対する徹底した寄り添いと可能性への拓心，そして新しい挑戦に対する率先力です。より豊かな世界を実現するために「ともにカラフルなセカイをつくる」こと，その掲げたビジョンに向けて邁進する WELgee をいつも応援しています。

サポーター

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)
平和構築・復興支援室長
坂根 宏治さん

将来の日本を考えた場合、日本に来られた難民の方々を応援していくことは、とても重要なことと思います。また「ともにカラフルなセカイをつくる」というメッセージはとても新鮮で、難民の方々の可能性を見出すことは、日本の社会にとってもきっとプラスになると思います。
WELgee の皆さんの今後のご活躍を期待しています。

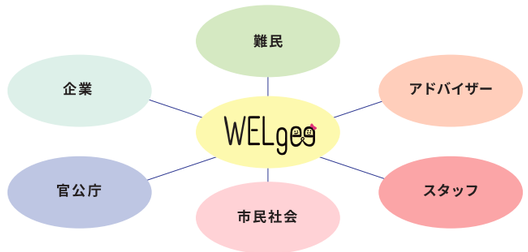
サポーター

文部科学省
官民協働海外留学創出
プロジェクトディレクター
船橋 力さん

WELgee の果敢に困難に向かう姿勢にはいつもワクワクする。難題であるからこそ、応援したくなる。それはそれは、渡部さん (JESS) とそのスタッフの姿勢は真剣で真摯的である。心身共に、そして経済的にも身を削って向こう見ずに進むのを目の当たりにすると、本人達の苦労は計り知れない。しかし、そこには、何か明るい未来を感じさせてくれるし、応援せざるを得ない熱いもの、崇高なものを感じさせてくれる。

WELgee の「Co-Creator」たち

Co-creator とは、WELgee とともに協働するパートナーのこと。WELgee が目指すビジョンを達成するためには多様な人々の働きかけが必要不可欠です。WELgee の価値創造に必要不可欠な「難民」をはじめ、産業界での価値をともに創る「企業」、より良い制度設計を考えるための「官公庁」、そして WELgee のビジョンに共感し活動を推進する「スタッフ」「アドバイザー」「市民社会」のみなさまを、重要なパートナーと考えています。



「難民」と呼ばれる、私たちの仲間たち

「難民」という人間はこの世にいません。
難民とはその人の状況を表す言葉であり、難民と呼ばれる彼らには、一人ひとり個性があり、人生経験があり、強みがあり、弱みがあります。「難民」という言葉で括ることがもったいない個性豊かな彼らについて、お伝えします。

日本人の「難民」のイメージとは？

あなたは難民という言葉を聞いた時にどんなイメージを持ちますか？
株式会社 PR TIMES が実施した調査では、400 人のうち最も回答数が多かったのが「貧しい・難民キャンプ」のイメージでした。多くの回答はネガティブなもの、日本の状況について答えた人は、わずか 4 名にとどまりました。

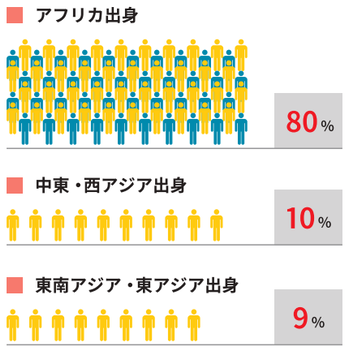
出典：株式会社 PR TIMES(2018)

WELgee に関わる多国籍の若者たち

WELgeeが出会った150 名の難民たちは、ユニークな人材の宝庫でした。

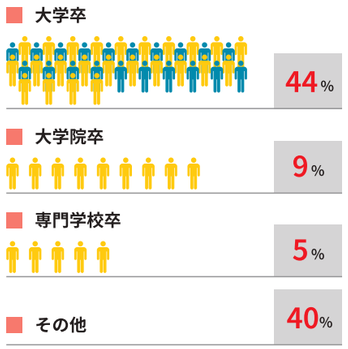
8 割がアフリカ出身

WELgee の関わる難民の 8 割がアフリカ出身、1 割以上が中東・西アジア出身です。コンゴ・チュニジア・カメルーン … 地球の裏側から日本へとやってくる彼らのなかには祖国で活躍をしていた方々も少なくありません。日本に飛行機で辿り着くことのできる経済資本と社会資本がそれを物語っています。



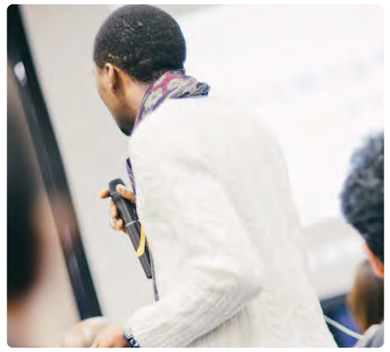
半数以上が大学・大学院卒

WELgee の関わる難民の 40% 以上が母国の大学を卒業し、また約 10% が大学院を修了しています。
医学、経営学、薬学など、様々な専門性をもっています。大学への進学率が低いような国から来た人でも、高等教育を受けた方が少なくありません。



世界を伝える存在

日本人にとって、難民は私たちの知らない歴史や世界の姿を伝えてくれるメッセンジャーでもあります。独裁政権から逃れた難民の方が民主主義の重要さを伝えたり、教育機会の少ない国で学んだ難民が教育の重要性を語ったり。彼らは私たちと世界をつなげる架け橋となる存在です。



祖国で築いたキャリアや経験を捨て、命の危機を乗り越えて日本までやってきた彼ら。
逃れた先の日本の不安定な状況でも尊厳を失わず、目の前の機会を掴み取ろうとする彼らから、私たちの学べることがたくさんあります。

様々な経験を持つ、ユニークな人材の宝庫である“ 難民 ”

様々なプロフェッショナルがいます……！

4ヶ国語話者	ジャーナリスト	プログラマー
大学院卒業	薬剤師	漁師貿易会社の経営者
NGO 職員	IT の専門家	歌手

彼らの声

最後に彼らの声を紹介します。

コンゴ民主共和国出身
G さん

WELgee の活動は、新たな機会を提供してくれるという意味で、難民として日本で生きる私たちの生活の多くを変えてくれます。そしてもう 1 つ。彼らは、私の母国を間接的に変えることにも寄与しています。なぜなら、私たちはいつかきっと母国に呼ばれ、彼らと一緒に学んだことを実践に移すことになるからです。

ナイジェリア出身
S さん

WELgee がいなければ今の僕はないよ。
WELgee 以外のどの組織がこんな状況を作れるのかわからないよ。
WELgee は掲げるビジョンを達成するまで、絶対に諦めない。
彼らがいなければ、今、会社員として君たちと話す僕はいないよ。

特定非営利活動法人 WELgee の事業年度・会計年度は、4/1 ～翌年 3/31 である。
ただし、法人の設立された 2017 年度については、2018/2/6~2018/3/31 となる。また、表示は NPO 会計基準に従う。

活動計算書

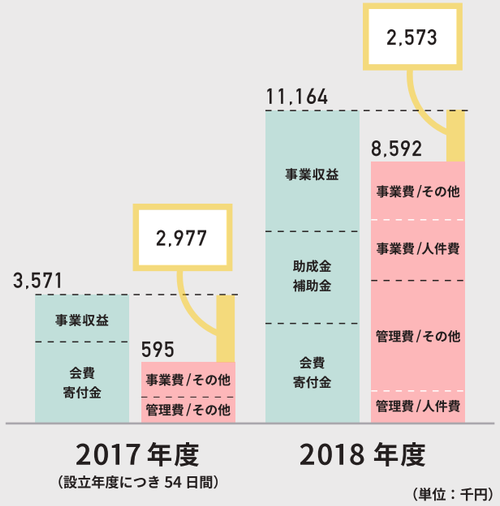
2017 事業・会計年度がわずか 54 日間であるにもかかわらず、会費・寄附金の額が 2018 年度のそれに匹敵している。それは、特定非営利活動法人 WELgee の設立に伴い、任意団体 WELgee の持つ資産を寄附というかたちで受け入れたからである。
2019 年度の課題は、組織・事業がビジョンを最速・最適に実現するための活動を維持・拡大する目的において、①常勤・非常勤を含む職員の人件費を確保すること、②収益基盤を強化すること（そのために「会費・寄附金」「助成金・補助金」「事業収益」の割合にも検討を加える）、③事業費と管理費の割合を是正することである。

活動計算書

（単位：千円）

			2017 年度	2018 年度
収益	会費・寄附金		3,166	3,414
	助成金・補助金		0	2,999
	事業収益		404	4,750
	その他収益		0	202
	計		3,571	11,164
費用	事業費	人件費	0	540
		その他経費	391	4,702
	管理費	人件費	0	1,200
		その他経費	202	2,149
	計		594	8,591
当期正味財産増減額			2,976	2,572

※2017 年度は 2018/2/6~2018/3/31、2018 年度は 2018/4/1～2019/3/31。



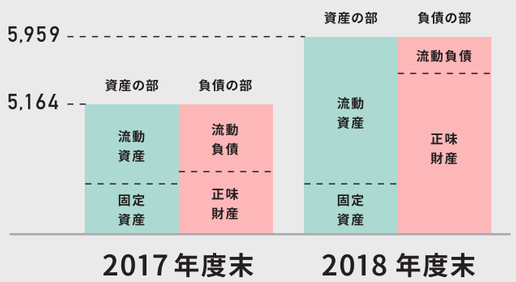
貸借対照表

2017 年度末・2018 年度末ともに、流動資産は主に現預金から構成される。固定資産ついては、大部分を千葉ハウス（土地・建物）が占めている。2017 年度末時点での流動負債の額が顕著に大きいのは、2018 年度事業のために受けた助成金を前受金として処理しているからである。流動資産の増加、流動負債の解消に伴って正味財産が大幅に増加している。当法人の扱う社会的課題は政治・経済・社会といった外的要因に大きな影響を受けるため、組織・事業のあり方自体が本質的に予測不可能なリスクを伴う。この背景のもと、外的要因の変動に対応しなければならない状況に備えるため、一定の財産の蓄積を図っている。2019 年度の課題は、組織・事業がビジョンを最速・最適に実現するための活動にとって必要な程度の全体的なスケールアップを図ることである。

貸借対照表

（単位：千円）

		2017 年度	2018 年度
資産の部	流動資産	3,564	4,489
	固定資産	1,600	1,469
負債の部	流動負債	2,187	415
	固定負債	0	0
正味財産の部		2,976	5,543



名称

特定非営利活動法人 WELgee
英語表記：WELgee Inc.

所在地

〒150-6027
東京都渋谷区恵比寿四丁目 20 番 3 号
恵比寿ガーデンプレイスタワー 27 階
株式会社デジサーチアンドアドバタイジング内

代表

渡部 カンコロンゴ 清花

役員

代表理事：渡部 カンコロンゴ 清花
理事：安齋耀太
理事：安西翔平
監事：渡邉賢太郎

設立

2018 年 2 月 6 日
（任意団設立：2016 年 3 月 24 日）

目的

この法人は、日本に逃れてきた難民及びそれに準ずる人々（以下「難民」）に対して、日本社会とのつながりと住居・仕事にアクセスする機会を提供することにより、彼ら彼女らが第二の人生に希望を抱けるような、寛容性と多様性にあふれた社会づくりに寄与することを目的とする。
（定款第 3 条）

メディア掲載情報

■ テレビ
・NHK　これでわかった！ 世界のいま（2018.02.01）
・日テレ　news every.（2018.01.30）
・TBS ニュースバード 千葉に難民のシェアハウス誕生、地域との共存（2018.08.26）
・abema TV　Abema Prime（2017.06.21）

■ 新聞
・東京新聞　朝刊（2018.03.19）
・Japan Times　Young social entrepreneur seeks to help asylum-seekers integrate into Japanese society, even while they're in limbo（2018.05.13）
・朝日新聞　朝刊（2018.06.20）
・中日新聞　朝夕刊（2018.10.12）
・日経新聞　" 生活管理職こそ社外活動　ボランティアや NPO 支援　さらなる成長・充実感求め "（2019.03.29）

■ 雑 誌
・一般社団法人日本福音ルーテル社団「JELA ニュース」第 42 号（2017.04.15）
・株式会社地球丸「天然生活」2017 年 6 月号（2017.06.01）
・社会福祉法人 東京都社会福祉協議会「福祉広報」2018 年 2 月号（2018.02.08）
・社会福祉法人 東京都社会福祉協議会「福祉広報」2018 年 3 月号（2018.03.08）
・一般社団法人日本福音ルーテル社団「JELA ニュース」第 46 号（2018.08.15）
・ソトコト「月刊ソトコト」2018 年 12 月号 No.234"（2018.11.05）
・THE BIG ISSUE JAPAN「ビッグイシュー日本版」353 号（2019.02.15）

■ ラジオ
・株式会社 J-WAVE　J-WAVE TOKYO MORNING RADIO（2017.03.21）